

高校生から見た親の期待 —— 親の伝えかた・子どもの感じかた ——

高木 枝美子

1. 問題と目的

親の子どもへの期待は子どもの発達環境を決定する基盤（柏木，1990）である。親の期待には、子どものやる気につながり、成績も上がるというポジティブな面（東，1994）と子どもの気持ちを無視して親の価値観で縛る「やさしい暴力」（斉藤，1996）となるネガティブな面とがある。就学前の子どものしつけにおいて日本の母親は米国の母親に比べて、暗示や示唆など間接的な方略で、子と情感を共有することでいわんとすることを伝えようとする（東・柏木・ヘス，1981）傾向がみられた。一方、高校生を対象とした調査（ベネッセ教育研究所，1996）の結果、過半数の親は子どもを「がんばれ」とはげまし、子どもからみた場合もやはり親の過半数は子どもへの期待を口に出して伝えている。さらに、第3回学習基本調査（ベネッセ教育研究所，2002）の結果、学習の悩み（高校生）として「親の期待が大きすぎる」は20.2%（1990年）→16.1%（1996年）→12.3%（2001年）と減少してきており、勉強に関する親からのプレッシャーは低下している。親の子どもに対する期待の内容やその強さ、期待の伝えかたと子どもの感じかたは変化してきていると思われる。

柏木・東（1977）の母親における幼児への発達期待に関する研究以降、親の期待が子どもへ与える影響について多くの研究が行われ、最近では、子どもから見た親の期待についての研究も増えている。しかし、子どもが親の期待に自分の希望を投影して認知したり、親が認知した子どもの希望を自分の期待として支持することがあるだろうから、一方のみの調査には限界がある。D.Rosenberg,L.Rosenberg,Farrell（1992）は、ニューイングランドのルッソー一家に数年にわたるインタビューを行い、父娘の葛藤の原因は、互いの「読み込み（read）」とその挫折にあると分析した。彼／女らは、

互いに自らの意図を明示することを避けながら、相手の意図を「読み込む」ことで自らの行為を決定し、互いの期待に応えようとした両者に終わりのない依存と抑圧を招いた（和泉，2000）。親子といえども相手のことをすべて理解するのは困難であるし、親子関係は相互に影響しあいながら変化していくものである。

また、青年期の特徴は家庭における対立が激しいことだと世間一般では考えられているが、親子が意見を異にする問題がたくさんある一方、全体的には親子関係はむしろ肯定的であり、大多数の家庭では世代間で大きな対立が起こっているという証拠はない。青年は、対人関係や個人にかんする問題については両親と仲間の両方に相談するが（Meeus，1989）、人生における重要な価値については両親から取り入れているとOchilree（1990）は指摘した（Coleman，2003）。

ところで、親の期待については、どんな期待をするかだけではなく、子どもがどのように認識するかが重要ではないだろうか。これまでの研究の多くは、親子どちらか一方からの分析にとどまっている。親子両方の視点から研究を行うことで、親の期待についての親子の認識の重なりとずれの実態が明らかになるだろう。本研究では、高校生の親子を対象に、親子独立したインタビュー調査を行い、得られたデータから、まず親の期待についての親子の認識の重なりとずれを見る。そして、それは親子にどのような影響をもたらすのかを検討する。次に、特徴的なケースについて Baumrind（1971）の基本的枠組みに従って、親の養育態度と期待との関連について考察を行う。最後に、親が子どもに直接はっきりとは言わなくても伝わる期待、すなわち非言語的・非明示的な期待メッセージの伝達について検討する。

2. 方法

(1) 調査対象者

大阪府在住の高校生の親子 35 組 [親：父 7 名、母 29 名 子：男 17 名、女 18 名（1 年 17 名、2 年 12 名、3 年 6 名）]

(2) 調査項目

① 子どもへの質問

- 1 家族構成
- 2 親はどのような人ですか。
- 3 あなたが小さい時、親はどんな期待をしていましたか。
- 4 現在、親はあなたにどんな期待をしていますか。
- 5 どんな時・場面で、どんな形で、期待を感じますか。
- 6 親が言っていることと、本当にあなたに期待していることが違うと思う時がありますか。それはどんなことですか。また、どんな時に感じますか。
- 7 親が考えているあなたと本当のあなたは違うと感じることがありますか。
- 8 親からの期待にどの程度応えていると思いますか。
- 9 親からの期待を重荷に感じたり、それから逃れたいと思うことはありますか。
- 10 きょうだいや家族関係のなかで自分に対する期待が他とは違うとか薄いか感じることはありますか。
- 11 友人と比べて、親のあなたへの期待は普通だと思いますか。
- 12 親からの期待は、どのように影響していますか。
- 13 親はどのような存在ですか。

② 親への質問

- 1 家族構成
- 2 お子さんはどのような人ですか。
- 3 お子さんが小さい時、どんな期待をしていましたか。
- 4 現在、お子さんにどんな期待を期待していますか。
- 5 どんな時・場面で、どんな形で、期待は伝わっていると思いますか。
- 6 あなたの期待が、素直にお子さんに伝わっていないと感じる時はありますか。それはどんなことですか。どのように歪めて感じていると思いますか。それはなぜだと思いますか。それを感じるのはどんな時ですか。
- 7 お子さんの本当の姿をどの程度理解できていると思いますか。
- 8 お子さんはあなたの期待にどの程度応えていますか。
- 9 あなたの期待が子どもにとって重荷なのではないかと不安になることはありませんか。
- 10 きょうだいや家族関係のなかで、お子さんに対する期待が他とは違うとか薄いか感じることはありますか。
- 11 友人と比べて、あなたのお子さんへの期待は普通だと思いますか。
- 12 あなたの期待は、お子さんにどのように影響していると思いますか。
- 13 お子さんはどのような存在ですか。

(3) 手続き

上記の内容について親子別々に半構造化面接を行った。面接中は流れに応じて質問の順番や内容を変化させた。インタビューは許可を得て録音した。分析にあたって録音した会話をテキスト化し一次資料とした。一次資料を親子ごとに会話を表にまとめ二次資料とした。二次資料より会話を質問ごとに表にまとめ、三次資料とした。

3. 結果

(1) 親の期待についての親子の認識の重なりとずれ

質問ごとに、親と子どもの認識が一致しているものを「一致」、一致しないものを「不一致」、部分的に一致しないものを「一部不一致」と分類した。

① 一致

(a) 一致ケース 0

親の期待はどのように影響していますか？

0女：（親が）応援してくれることで頑張ろうと思えることが、成長だと思うんですよ。あの二人に育てられたことで、親としての愛情は学べたんですよ。自分の子どもにこうして接してあげられたらなあ、理想となっているんです。母は常識的な客観的な意見を言ったり、ああそうかということがよくあるんですよ。
0母：私はあの子に関して子育てのプロやと思ってます。細かいことまで正確に分かっているわという気持ちがあるんです。それで適切な時期に適切なことを言っていると自分では思っているんで。頼ってくれている時があることが自分では分かるんです。

親子とも、自分たちは理想的な親子だと感じている。子どもは、親の期待を励みに感じている。母は、子どもに関心を持ち、子育てに自信をもっている。

(b) 一致ケース C

友人と比べて、親の期待は普通ですか？

C女：うちのお母さんはそんなに期待しない人なんか。と言うか、出せへん人なんかとは思っている。そんなに子どもに色んなこと望まないというか。”みんなが自分で見つけた道を好きなように生きたらいい”と思ってるんで。私が、お母さんが期待してるやろなって思うくらいは期待していないのかもしれないですね。
C母：弱いんちゃいます？「もっと期待せえ」って言われるんです。娘に。「あんたなんかに期待してもしゃあないんちゃう」「はよ一人になりたい」って言ったら、「変わった親やなあ」って言われてんけど。

大きな期待はしていないという認識で親子は一致し

ている。子どもの「自分が思うほど母は期待していない」という認識は、「期待されていると感じていたい」という思いの現れかも知れない。このエピソード以外で、子どもは母を「親友みたいな感じ。何でも言える。」存在、母は子どもを「とことん話し合う。娘にはそばにいてほしい。いつまでも友だち感覚でいたい。」存在としていた。

②不一致

(a) 不一致ケースJ

子：親が言うことと本当に期待していることは違うと思うことがありますか？

親：期待が子どもへ素直に伝わっていないと感じる時はありますか？

J男：親から言われるのは本心だと。一応分かるんですけども、タイミングが悪かったり、弟とケンカした後に言われるので、イライラしちゃうんです。
J母：「あなたにはあなたの人生があるんや」と言うのと「どうせ僕は勉強でへんし」「弟と比べられてどうのこうの」と言ったことがあって、”あれ？ちょっと違って伝わってるな”と感じたことはあります。

子どもは親が言うのは本心だと受けとっているが、母は自分の期待が意図とは違う意味で子どもに伝わったことが意外であった。このエピソード以外で、子どもは「親子関係を悪くしたくない。言いたいことも言えないことがある。」「親より友達やお祖母ちゃんに本音をぶちまける。親への不満が多い。」と母に対して遠慮や不満がある。一方、母は、「本音で話してしまう」「頼りにし、相談相手としても安心して話のできる息子」と信頼をよせていた。

(b) 不一致ケースL

きょうだいや家族関係のなかでの期待の違いはありますか？

L女：姉はやりたいことに向かって進んで行ってる。私は何も決めてないから、早く決め、みたいな。(妹弟と比べて期待は) 別に変わらんと思う。
L母：違いはありますね。差別するのは良くないのですが、一番期待しているのは一番上の子かな。一番上の子は手がかかるし、一番心配するし。L女(二女)はそれを見て育っていて、間違いなく生きていけると思うんですよ。親が思っているような大人、社会人になってくれそうな気がするんです。三番目の子が中1で難しんですよ。父親が三番目の子を可愛がって、私が厳しくすると、余計にお父さんのほうが甘くて…。今度は、私が四番目の子に甘くて、

父親が厳しくて。

母は子どもそれぞれに対して期待に違いや差があるが、子どもはその違いを感じていない。

③一部不一致

(a) 一部不一致ケースA

親の期待を重荷に感じることはありますか？

A男：重荷ではない。あんまり言われないので絶対期待していないと思うし、言われないから逆にちゃんとしなさいと思いません。

A母：神経質で、入試の時期に「心臓が痛い」と言って、医者へ行ったら異常なくて、精神的なもので。負担があるのはそれで分かるかな。神経質だからあまり本人には(期待を)言わないでおこうと。本人は感じているのかもしれないけど、あまり言っていないつもり。

期待をあまり言わないということでは親子で一致している。しかし、親が期待を言わない理由についての認識が親子でずれている。母は息子が神経質で負担に感じるだろうから言わないでおこうと気遣っているのを、息子は言われないから期待されていないと思っている。さらに、言われないからちゃんとしようとする自覚している。

(b) 一部不一致ケースH

親の期待はどのように影響していますか？

H女：親が強制せず、親のやりたいようにしないでくれたから、今、自分はやりたいことを見つけて出来ているので、そこが大きい。

H母：子どもが、決めかねてどうしたらいいのか、本当にこれでいいのか、という迷いのようなものがあつた時、私たちはあえて引つ張らなかつたが、今思えば、反対にしなかつたかもしれない。漠然と今はとりあえず一生懸命やったほうがいいのかというのがアバウトすぎて、”私は何をすればいいのかよ”と本人は思ったかもしれない。

親の期待を子に強制しなかつたという認識で親子は一致している。子どもは、そのおかげで今やりたいことを出来ていると満足しているが、親は子どもをリードしなかつたことを反省している点はずれている。他のエピソードとして、この親は子ども自身が決めるまで待ち、決めたことは支援するという姿勢を、子どもの幼少時代から一貫してとっている。

(2) 親の養育態度と期待

Baumrind (1971) 考え方では親の養育態度は4つに

分類される。「権威主義的な親 (authoritarian parents)」は子どもを服従させ、罰を与え、思いやりがほとんどない。「権威のある親 (authoritative parents)」は温かいが、論理的に確固とした指導をし、子どもの自立を促す。「許容的な親 (permissive parents)」は、温かいがあまり規範をもたず、子どもを縛ったり罰を与えたりしない。「拒絶・無関心の親 (rejecting-neglecting parents)」は子どもを拒絶し、自立を奨励しない。

今回はこのうち3タイプのみが想定された。

①権威主義的な親 —ケースAC母・子—

養育態度は下の(b)のような特徴を示し、「権威主義的な親」の態度に典型的な特徴をもつと判断した。

(a)家族構成

母(栄養士、40歳代)、娘(私立高校普通科看護医療コース1年、看護師志望)(父は婚姻関係になく週1回会う)

(b)養育態度と子どもの態度

母が子どもを押さえつけて育て、影響力が強い。勉強などが出来ないと、怒鳴り、叩き、罵りながら怒る。子どもは黙って泣くだけで反抗しない。その子どもの態度に母はますます激高する。期待の実現のため、母は進路について干渉し、子どもには任せない。子どもが習い事をやめないのは、母に見捨てられたくないからだろうと母は考えている。

(c)親の期待

母は、看護師になってほしいという期待を小5から日常的に言い続け、それを子どもの希望にすり替えるために、「あんたが選んだんやろ」と言うようにしている。母は、進路に関して子どもは100%期待に応えてくれた、期待は重荷ではないと感じている。

子どもは、母の期待にそって進学している。しかし、勉強面では母の期待に応えられていないと思い、期待を重荷に感じる時がある。

(d)親・子の存在

母は子どもについて、親の言うことを素直に聞くが、行動には結びつかない、言われないと何も出来ないと思っている。子どもを愛おしく、いないと寂しい存在と感じている。

子どもは、親を大切な存在であると思っている。

②権威のある親 —ケースY母・息子—

養育態度は下の(b)のような特徴を示し、「権威のある親」の態度に典型的な特徴をもつと判断した。

(a)家族構成

父・母(ともに自営業、40歳代)、姉(大学2年)、弟(調査対象者。私立高校国際科1年、軽音楽部、ミュージシャンまたはアイデアを活かせる仕事志望)

(b)養育態度と子どもの態度

親は日頃から、自分の意見をもつようと、子どもに話している。音楽活動をしている子どもに、節度をもって資源を提供している。

子どもは親について、間違いは怒り、良い方向に導いてくれ、父は子どもの興味を引き出し、自ら考える大切さ、本当の意味での学習を教えてくれたと感じている。

(c)親の期待

親の期待は、健康であることとちゃんとした社会人になること。それは親の責任である。父母の信念は、自分で決められる人間になること。親が常に言っていることは分かっているという意味では、期待に応えてくれている。将来について自分の意志で決めて進むという意味では、まだこれからである。

子どもの感じる親の期待は、自分で考えて意見をもつこと。勉強にも仕事にも興味をもち、自ら楽しさを見いだすこと。親の期待に応えることができたなら、大人になったということ。今はまだ、親に育てられているので期待に応えるということは完璧にはできない。

(d)親・子の存在

母は、子どもに納得のいく人生を送ってほしいと思っている。子は、親を尊敬の対象としている。

③許容的な親 —ケースAE母・娘—

養育態度は下の(b)のような特徴を示し、「許容的な親」の態度に典型的な特徴をもつと判断した。

(a)家族構成

父・母(ともに自営業、40歳代)、娘(私立高校普通科3年、保育士志望)

(b)養育態度と子どもの態度

母は、子どもの頃にかまってやれなかったから、何も出来ない子・しない子になったと思っている。

母は子どもが小さい頃から、したいと言うことを次々させてやる。不登校がちな子どもに合う高校を探し、大学も卒業すれば、取得した資格で就職しなくても良いと考えている。子どもが親に当たっても、大目に見る。母は、知人にも子どもにも「甘い」と言われる。子どもは、家族より自分が上の位置にいるつもりだと感じている。

子どもは、親が期待を言わないので楽だった。

(c) 親の期待

母は、子どものしたいようにさせてやりたい、あれこれ言わなくても、子どもは分かっているだろう、ガミガミ言うのは嫌だと考えている。子どもと衝突した時に、親が思わないことを子どもは感じて、重荷だったのかと感じる。

子どもは、機嫌が悪い時に親から学校に行くように言われると、鬱陶しく思い反発する。学校に行くことで、期待に応えていると思う。やりたくないことをやれと言われると、やる気を喪失するが、助けてもらいたい。

(d) 親・子の存在

母は、子どもは宝物で、上手に育てるのは難しいと感じている。子は、父を違う世代で話せる人、母を安心してしゃべれる人と感じている。

(3) 親の期待の非言語的・非明示的表現による伝達
インタビューデータから、非言語的・非明示的な期待メッセージを抽出し、内容ごとに分類した。

① 子どもが感じる期待メッセージ

(a) ニュースなどの話題

Y男：テレビとかを見て、「何も自分のことを考えずに生きてるのはあかん」って言うんですよ。そう言うことは、僕にはそういう人になってほしくないということじゃないですか。

世の中の出来事についての親の考えにふれ、それを親が自分に期待する行動や生き方として読み替えることがあるようだ。

(b) 自分の夢や目標に対する支援

B弟：テニスの予選で優勝して、本選会行ったんですけど、「すごい」とか言われて、その時に（期待を）感じました。ちょっと頑張らないといけないな、と思います。

クラブ活動等に親が共感や応援してくれることから、親の期待を感じることもあるようである。

(c) 学習面での支援

F女：高い勉強机買ってくれてた時、一生ものやなって。普通の机でよかったんですけど。期待してるのかなって。
AE女：大学の話、ウチより先に調べてたり。やっぱり協力してくれるんやな、イコール期待みたいな感じですね。

親が学習環境を整えてくれる様子から、期待を感じることもある。

(d) きょうだいへの態度

D男：兄ちゃんが定職に就かないのを怒ってたのを横で聞いてたんで。それにはなったらあかんなあと思いました。

上のきょうだいに親が注意するのを見て、間接的に自分への期待を推測することがあるようだ。

(e) 家族の様子

AF兄：母の仕事、肉体労働でしんどいので、そういう仕事をせんでいいように資格とって、弁護士とかそういう仕事やったら体も使わんでも、頭だけ使えたらできるし、収入もそこそこあるしみたいなの。年齢行くにつれてしんどくなるから、たぶん肉体労働はやってほしくないよ。

親が辛いと感じることを子どもにはさせたくないとか、親のできなかつたことを子どもにはさせてやりたいとかいう気持ちが子どもには伝わるようだ。

(f) 他人との会話

G女：ウチが（高校を）受けにいってる時にお母さんがお百度をしたのをお父さんがさりげなく言って。それを聞いてガミガミ言ってたのも、「ああほんまにやってほしかったんやなあ」と思って。

親が陰で自分のためにした行動を人から聞いて、親の期待を感じることもある。直接言われるより、間接的に知ることによって素直に受け入れられる場合もある。

② 親が伝える期待メッセージ

(a) ニュースなどの話

N父：テレビを見ても、「やっぱりこういう技は盗まんとかかんよなあ」とか、僕が独り言をいうわけですよ。そういうのが入ってるんじゃないですかね。

親がテレビ番組について話した意見が期待として伝わったかもしれないと考えている。

(b) 子どもの夢や目標に対する支援

0母：あの子が起きる前に父親がサブリを調査して、昼の分を入れてあげて。「自分でさし」って言うてるんですけど。自分がやってるとは言わないんです。私がやってると娘は思っているかもしれないですね。

クラブ活動等の子どもの目標を応援している親の様子から期待を感じるだろうと思っている。

(c) 学習面での支援

B父：親としては子どもの希望を叶えてあげたいから、環境を作ってやったり、手伝ってやったり。そうするうちに、やってることを期待と思われる場合はあるかもしれへんね。例えば「勉強が分からん」と言ったら、「教えたる」となりし、教えられへんようになってきたら、「じゃあ塾行くか？」となるから、逆に“勉強せなあかん”という期待に変わる可能性は高いわな。

学習面において親が支援するうちに、親の期待として子どもは捉えるかもしれないと考えている。

(d) きょうだいへの態度

D母：兄姉を見て、親の姿勢も分かってたでしょうから。自分にはそんなに大きな期待かけてないっていうのは分かってたんちゃうかなって思いますけど。自然に分かるんちゃうかなと思いますよ。兄姉を見てればね。

上のきょうだいへの親の対処を下の子どもが見て、親の期待を推し量ることがあるだろうと考えている。

(e) 家族の様子

S父：子どもは親の背中を見て育ってほしい、常々そない思てるよ。子どもはどんな風に思てるか知らんで。僕はPTAもやり、地域もやり、色んな所で色んな活動をやってきましたやん、今まで。僕は悪いこと一つもしてないし、皆さんの役に立つようにやるとるから、その背中を僕は見てほしいだけで、子どもにああせ、こうせは一切言わない。それと夫婦仲良うね。これが一番基本やと思うんよ。夫婦が諍いばっかりしとってね、子どもがええなるわけないね。何にも言わんでも分かってくれると思う。

家族の行動を通して、期待が子どもに伝わるのではないかと感じている。

(f) 他の人から聞いて

B父：懇談の時「(〇〇高校に)行かしたいと思ってます」ぐらいは言ったと思う。結構本人もそういうのは感じていたんじゃないかなと思う。

懇談会での先生と親の会話の内容から親の期待を子どもが感じたのではないかと考えている。

4. 考察

本研究では、高校生の親子の各視点から親の期待とその伝えかた、感じかたについて検討を行った。

親の期待についての親子それぞれの認識がずれていることは必ずしも問題ではなく、場合によっては、ずれていても平穏な家族関係を維持できることがあると分かった。子どもが親との関係に満足している場合、子どもは親の言葉をネガティブに解釈しせず、親の期待は子どもの励みになるなどの良い影響をもたらすと思われる。一方、親との関係に不満を抱えている子どもは、親の意図を深読みしてネガティブな解釈をすることが示された。これらを総合すると、子どもが感じる親子関係の質は、親の期待についての子どもの認識に影響を及ぼすと考えられる。

また、親が期待が子どもにとって重荷になるのではないかと心配したり、期待を押しつけないよう配慮をする一方で、子どもは親の期待を重荷ではないと感じ、むしろ励みになったり、嬉しいと感じていることもある。子どもが親の期待を肯定的に捉える要因として、子どもに対する親の理解・支援、親子の目標や価値観の一致、生活面や目標に向けて努力しようという子どもの自覚、良い親子関係があるのかも知れない。これらとは逆に、もっと子どもの学習や進路に積極的に介入すれば良かったと反省する親もいるが、子どもは不満には感じていない場合もある。この要因は、子どもの決定を支援する親の一貫した姿勢や親に対する信頼感にあるのかも知れない。また、子どもに強い期待をかけない親に対して、子どもはもっと期待してほしいと感じる場合もある。親の期待を重荷になるものとして子どもが捉えないのは、互いに遠慮することなく話ができる親子の関係性が基盤にあるからかも知れない。よって、親は高校生とは難しい時期だと思いこんだり、子どもとのやりとりについてむやみに不安になる必要はないのではないだろうか。だが、家族や周りの配慮が必要な場合もある。子どもの目標と親の期待が異なり、親の期待に応えることはできないと子どもが感じる時は、親子がしっかりと話し合い、親はその期待を見直して子どもの目標と折り合いをつけ、引き続き子どもに助言や支援をすることができるかどうか、その後の親子関係の質を左右するのではないだろうか。

これらを総合すると、親の期待についての子どもの認識は、子どもが感じる親子関係の質や親の養育態度に影響されると考えられる。子どもの適応には子どもが親との関係や親の態度をどのように認識しているかが鍵となりそうだ。

親の養育態度と期待について、「権威主義的な親」の期待は、将来、子どもが経済的に不自由しないようにという親心によるものではあるが、子どもの意志は全く尊重されていない期待である。子どもは、親に従順ではあるが、親がいない場では、自分ひとりでやりとげられないことがある。また、親は期待が子どもにとって重荷になるとは思っていない。しかし、子どもは重荷を感じる時がある。「権威主義的な親」は、子どもの将来の職業についても、子どもの希望や適性を無視した期待を押しつけるということが考えられる。また、親は子どもの進路選択の動機を”親がすすめた”ではなく”子どもが選んだ”にすり替えようとする可能性が見いだされた。そうすることで、親は「あなたが選んだのだから」と子どもに責任を感じさせるあるいは転嫁することができる。その結果、子どもは自分の本当の目標を見出せなくなるのではないか。今後、子どもは自分が何をしたいのか、何をやる必要があるかを自覚し、親は子どもの意志や適性を考慮して期待を見直す必要があるだろう。

「権威のある親」は、子どもの将来に関心をもちながら、干渉しすぎずに見守っている。「権威のある親」は、子どもの将来の職業について強制するような期待はせず、子どもの意志を尊重しながら、親の職業観も伝えるということが考えられる。そして、子どもは親の期待を真摯に受け止め、自分の決めた道を進もうとすると考えられる。「権威のある親」は、子どもに適切な期待をもつようだ。

「許容的な親」は、子どもの好きなようにすれば良いと言うが、子どもが目標をもって学ぶことを支援しようとするわけではない。子どもは親から強い期待は言われなから気楽に感じている。「許容的な親」は、はっきりとした期待を子どもには示さず、積極的に自立を促そうとしていないと考えられる。子どもは、将来の目標についても親任せにしてしまう可能性がある。事例では、父の影響についてはっきりしないが、父は子どもに意見をして子どもと衝突し、母は父に意見す

る様子うかがえるので、実際には親の期待や子どもの感じかたはもっと複雑なものかも知れない。

期待についての非言語的・非明示的な伝達について、親が期待を間接的に伝えようとする背景には、あまり言う子ども負担になるのではないかと配慮、子どもは親の気持ちを言わなくても酌んでいるだろうという考え、子どもは親の背中を見て育つものであるという信念などがあり、非言語的・非明示的な表現を用いるのにはさまざまな理由があることが分かった。また、親が伝えようと意識していない期待を子どもは察することがあると判明した。例えば、成績が上がった時に親が喜んでいる姿や、試合を応援してくれる様子を見て子どもは親の期待を感じることもある。非言語的・非明示的なメッセージの内容としては、生き方・学習・部活動・進路などがあつた。非言語的・非明示的なメッセージが伝わる状況としては、マスコミなどで取り上げられる話題についての意見、子どもの目標・学習に対する協力や支援、きょうだいや他の家族の様子、第三者との会話など日常のさまざまな場面が上げられた。よって、非言語的・非明示的な親の期待メッセージの伝達は、親-子の二者間だけでなく、家庭や学校、社会などあらゆる文脈でいろいろな人を巻き込んで行われることが明らかとなった。また、非言語的・非明示的な期待メッセージは、子どもにとって励みや支えになりうるということが分かった。また、はっきりと言うよりも、期待を素直に受け入れられることがあると分かった。しかし、その効果を意識して、親が非言語的・非明示的な表現を用いるのかどうかまでは分からなかった。また、子どもにとって重荷になる非言語的・非明示的な表現は見出せなかった。

本研究では、子どもの心がよく分からないと不安に感じる親の姿が見られた。一方、親の気持ちを違う意味に解釈して傷ついている子どもはいても、親の心がよく分からないと悩む子どもは見られなかった。しかし、本研究の調査協力者では見られなかった、あるいはこのインタビューの中では引き出せなかったのかもしれない。実際には親の顔色をうかがう不安な高校生がいるはずである。学校現場において支援が必要な生徒はこのようなタイプの子どものみである。今回の調査では、対象者の特性を限定せず、高校の種類、親の職業、学年や性別等が多様に変化に富んだ幅広い協力者が集

まった。しかし、結果的には親子が激しく対立しているような組み合わせは見られなかった。インタビュー調査に協力してくれるのは、親子関係が良好であるか、親子が対立している問題を抱えているとしても結合性が高い親子が多いのかも知れない。その意味で、本研究の方法は不十分であったと考える。今後は方法を検討し直し、もっと多様な養育態度や家族関係の親子を対象とした調査が必要である。

本研究で明らかになった内容は、学校現場での生徒指導、進路指導等あらゆる場面で実践に活かすことができるものであると思う。教員は親の養育態度や親子関係に配慮をして、支援する必要がある。

また、今回の調査では、親と子どもを対にして、双方の視点から検討できた点で意義があると思う。しかし実際には、親の期待の伝達には、親子以外の人、例えば、きょうだい・祖父母などの家族、教師・友人等周辺の人々、環境も関わっていた。そのため親子のみの調査では把握しきれない課題が多く残されている。今後は、家族全員の視点から親の期待を見ることが必要であろう。また、親の期待も子どもの目標も家族関係の質も固定したものではなく、時とともに変動することが予測される。そのため、今後は縦断的に研究を行うことも必要であろう。

文献

柏木恵子 (1990) 環境としての親の期待 発達 ミネルヴァ書房 41, 9-17.

東洋 (1994) 日本人のしつけと教育 東京大学出版

斉藤学 (1996) アダルト・チルドレンと家族 学陽書房

東洋・柏木恵子・ヘス (1981) 母親の態度・行動と子どもの知的発達—日米比較研究— 東大出版会

柏木恵子・東洋 (1977) 日米の母親における幼児への発達期待及び就学前教育観 教育心理学研究 第25号4巻, 34-45

S.D.Rosenberg,H.L.Rosenberg&M.P.Farrell (1992) "In the Name of the Father" in G.C.Rosenwald& R.L.Ochberg (eds.), *Storied Lives : The Cultural Politics of Self-Understanding*. Yale University Press, 41-59

和泉広恵 (2000) 能動的権利とケアされる権利—児童

福祉法の改正にみる子ども観の再検討— 家族研究年報 25, 4-15

J.Coleman, L.B.Hendry (1999) *The Nature of Adolescence (third Edition)* 白井利明他 (訳)

(2003) 青年期の本質 ミネルヴァ書房

遠藤利彦・北島歩美・喜岡恵子 (1994) 青年期中期における自我性の発達と家族関係 聖心女子大学論集 第83集 抜刷

ベネッセ教育研究所 (1996) モノグラフ・高校生 VOL.49 高校生の競争感と共生感 (株)ベネッセ・コーポレーション

ベネッセ教育研究所 (2002) 研究所報 VOL.29 第3回学習基本調査報告書 高校生版 (株)ベネッセ・コーポレーション

(修士課程)